



第 43 号

千 町 田

発行元:(農)のきの郷
安来市利弘町 922-3
Tel/Fax:22-2580
発行責任者:河津 一行

水稻経費削減

副代表理事 河津 一行

全国一斉緊急事態宣言は解除されましたが、いまだ新型コロナウイルスの恐怖が続いており組合員の皆様の御辛苦に心よりお見舞い申し上げます。のきの郷でもその恐怖と向き合いながら現在田植え作業を続けているところです。



そのために検討すべきことはまず生産経費の削減です。一番費用が掛かっている生産資材には、肥料や農薬などがあり収量の増

当法人の基幹作物は言うまでもなく水稻であり、これから予想される米買取単価低減が経営を圧迫する恐怖と考えています。今年から水稻育苗施設を導入し、育苗箱約1万2千箱を自己生産することで、これまでの種苗経費を大幅に削減することが出来ました。しかし、さらなる経費の削減を目指す必要があると考えます。昨年までの米買取単価は、1袋(30kg)六千円以上で推移していましたが、これが四千円位まで下がることを考えておく必要があります。なぜなら、もしそのようなことになれば売上高が現在の3分の1以上の減少となるからです。

減に影響するため削減するには精査が必要です。次に地代や従事分量といった組合員の皆様にお支払いしているものは落としたいのが心情です。労務費はこれからの担い手として新しい技術の導入を視野に入れそれを実行できる人材の育成を図るため必要になります。残るは機械設備となり、これらの利用効率を上げていくことが不可欠となります。このように経費削減を行うには作業全般の見直しを図り、新しい農業体系を確立していくことが求められます。



通常総会にて承認されましたイチゴ栽培のためのハウス5棟が着々と出来上がっています。高設栽培のための棚が配置され、養液や電気設備の配管工事が進められています。栽培品種は、「紅ほっぺ」と「章姫」が予定されています。製品はもちろん規格外品もジャムなどの原料として出荷します。また、観光農園でいちご狩りを楽しんでもらうことも計画しています。



一方、販売については価格が安定しにくいJA出荷だけでなく契約販売や直販センターなどの導入により販路を拡大し現在の価格を維持できるようにしなければなりません。また、これからは水稻だけでなく様々な作物にも挑戦していく必要があります。そのなかで将来に向けて進めているのが、今年ビニールハウスを導入して始めるイチゴとブドウの栽培です。のきの郷と地域の発展のため組合員の皆様のさらなるご理解をよろしくお願い致します。





春作業の様子

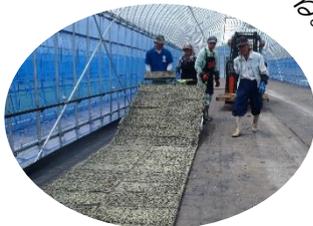
田植えは第1弾
が4月29日
から始まりつ
や姫、コシヒ
カリ、WCS
用稲、きぬむ
すめの一部。
第2弾が5月



田んぼでは麦が大きくなり麦秋と
言われる時期になりました。

菜種も大きなさやを
付けています。田植えが
終わると麦、菜種の刈取
り、大豆播種の準備と作
業は続きます。

21日からきぬむすめ、こころ。
最終が6月11日より飼料用
米となります。今年から苗
はすべての品種を播種から
育苗までのきの郷で行って
いるため田植えに合わせて
播種を順次進めています。



お知らせ

保有米・縁故米の注文数の変
更が可能です。ご希望があれ
ば、のきの郷事務所までご
連絡をお願いします。

新入社員紹介

新入社員として2名の方をご紹介
します。組合員の皆さんと一緒に作
業をすることもありますのでよろ
しくお願いします。前嶋さんは作業に
従事し、杉原さんは経理と特産部の
作業に従事されます。お二人に抱負
を一言ずついただきました。

◎前嶋 裕佑 飯島町



少しでも早く仕事
を覚えて皆様の前
で活躍できるよう
頑張ります。よろ
しくお願いします。

◎杉原 明美 赤崎町



皆さんのお役に立
てるよう頑張りが
ます。見かけたら気
軽に声をかけてく
ださい。

退職

◎佐伯 洋子 利弘町



能義地区営農組合より、経理を
務められました。4月30日付で退職さ
れました。長い間ありがとうございました。

能義小 田植体験学習

5月26日能義小学校5年生8人が
体験学習で田植えを寿会の皆さんと
協力して行いました。子供たちはほ
ぼ初めて入る泥の感触に大騒ぎでし
たが、だんだん慣
れてくると上手
に苗を植えるこ
とが出来ました。
最後の感想で「上
手に植えられた。」
「昔の人の苦勞
が少しは分かっ
た。」などがあり
ました。



なたね油を値下げしました

賞味期限が今年12月のなたね油を
値下げします。この機会にぜひご賞
味ください。事務所販売のみ対象
となりますのでご了承ください。

500円 4500円

👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉👉

5月は新型コロナ禍で行動の自粛
を求められた不自由な日常でした。
徐々に緩和されていますが、早く安
心な日常に戻りたいです。(お)